

後文政九年九月

御目附方日記

到月十年亥月

久保田

立野左右衛門

具書

特別
リ5
15591
1

石存

倉田少之介
酒井左左衛門
土井佐兵衛

土井長吉
土井善三

文政九年 戌九月朔日



一 為... 諸君... 謹啟

一 今... 諸君... 謹啟

二 日

中野の愛の及ぶ此の...
...

今...
...

四日星

...

五日田

...

定

一 南年直津深寺之内茶榎を度
一切物並居交申

一 堀田之井願堂付心

一 諸勤を修心

名入傳にお寄り申上
千一付名也

月

一 徳多村を主
一 新田村
一 小松村

朱子學人修家

內世字

方子此

方子此

方子此

方子此

方子此

方子此

方子此

方子此

內世字

方子此

方子此

方子此

二七日

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

二六日

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

二六日

九日

一 江根飯場おまき中書場例
か物あふ

十日

一 下向は若湯の海へ
おまき中書場例
か物あふ

十一日

一 吾輩私に神を奉りて去儀用古歌を
詠例に依りて味を外に奉りて

・ 十 〇 〇

・ 十 〇 〇

一 此の古歌を奉りて去儀用古歌を
詠例に依りて味を外に奉りて
吾輩私に神を奉りて去儀用古歌を
詠例に依りて味を外に奉りて

一 許樂一也
一 許其行能知
一 大之也
一 格于子新之
一 能是之
一 身之四

許理
許理
許理
許理
許理

六十四

十七

一 許其行能知
一 許其行能知
一 許其行能知
一 許其行能知
一 許其行能知

一
今
日
印
度
神
廟
之
名
曰
亞
米
尼
亞
也
其
神
像
亦
不
知
其
何
物
也

日
十
六
日
田

日
十
七
日
田

日
十
八
日
田

日
十
九
日
田

一
昔
年
在
神
廟
之
前
有
一
何
物
也
其
神
像
亦
不
知
其
何
物
也

乙未年四月廿九日

日好綠竹
去日好
伊禮西

・ 七

藏書
中
左

・ 九

一 卯辰巳未
庚申酉戌
亥子丑寅

・ 九

一 卯辰巳未
庚申酉戌
亥子丑寅

九月廿二日

十月廿三日

一 陽春在州之陽其地宜於之命以爲學
一 春在事之有也之記如仁德

十月廿四日

十月廿五日

十月廿六日

一 陽春在州之陽其地宜於之命以爲學

・九七日

一 高野山に詣りて、高野山に詣りて、高野山に詣りて、

・は

一 高野山に詣りて、高野山に詣りて、高野山に詣りて、

・は

一 高野山に詣りて、高野山に詣りて、高野山に詣りて、

一 高野山に詣りて、高野山に詣りて、高野山に詣りて、

一 高野山に詣りて、高野山に詣りて、高野山に詣りて、

多後乃須... 十月朔日

十月朔日

一 介... 書... 一 中... 出...

一 日

一 内... 西... 解... 江...

右通一書能成四書下也

業の

海島武倉

人 五右衛門

下 凡九五枚

一 今一ノ... 夫不... 亦不...

一 南年十月三日

一 式所... 休登... 好...

一 一... 年通...

一 此の書は... 十月五日

一 今... 此の書は...

一 此の書は... 此の書は...

一 此の書は... 此の書は...

一 此の書は... 此の書は...

一 此の書は... 此の書は...

一 武蔵野の山に居るしし 河津の二良の
此の山に

十月七日

一 藤原の山に居るしし 河津の二良の
此の山に
河津の二良の
河津の二良の

一 藤原の山に居るしし 河津の二良の
此の山に

河津の二良の

一 藤原の山に居るしし 河津の二良の
此の山に

一 念有主之善此彼也...
一 念有主之善此彼也...
一 念有主之善此彼也...

おのり...
り...
り...

一 念有主之善此彼也...
一 念有主之善此彼也...
一 念有主之善此彼也...

一 念有主之善此彼也...
一 念有主之善此彼也...
一 念有主之善此彼也...

一 念有主之善此彼也...
一 念有主之善此彼也...
一 念有主之善此彼也...

一 念有主之善此彼也...
一 念有主之善此彼也...
一 念有主之善此彼也...

一 念有主之善此彼也...
一 念有主之善此彼也...
一 念有主之善此彼也...

一 御書之東信分取
子所通取在御書
御書之末

十一

二十

一 御書之末

二十一

一 御書之末

二二二

一 為るは物と云ふ物又村山利と云ふ
米高表の市と云ふ 山山と云ふ
一 昔はと云ふ人利と云ふ

二二二

● 益利と云ふ

二二二

一 為るは物と云ふ物又村山利と云ふ
米高表の市と云ふ 山山と云ふ
一 昔はと云ふ人利と云ふ

おまへ

一
千七百九十八
年四月廿七日

十七日

二十一日

一 今 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡

一

西 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡
今 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡
今 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡
今 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡
今 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡
今 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡
今 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡
今 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡
今 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡
今 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡

今 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡

今 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡

今 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡

今 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡

今 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡

今 山 野 村 邊 人 往 來 者 甚 多 亦 有 盜 賊 之 跡

二十九日

一
此夜似夢人依此山
此山亦非山也
此山亦非山也
此山亦非山也
此山亦非山也
此山亦非山也
此山亦非山也
此山亦非山也
此山亦非山也
此山亦非山也

口述

筆

私以古者村邊人依此山
此山亦非山也
此山亦非山也
此山亦非山也
此山亦非山也
此山亦非山也
此山亦非山也
此山亦非山也
此山亦非山也
此山亦非山也

庚

十一

一 八ノ草離式の流を二流の二流なる
三ノ移調子本意し

二 七ノ日

一 西持院を名したる通書紙の流し成り
本意は其の如し

口 透

大なる為て交尚流に抑年と云ふ
部より来る者河内物長物に降立御
お作し存するは流の如くお作

當此編年之始深望之於後難於在
于退之於知之事而亦非為其首月
大云公曰大司之也而亦知知也
依之者何也乎此中之事也
法中之事也夫亦亦亦亦亦亦亦亦
惟也何公之也此來亦亦亦亦亦亦
早者則紙書我之也下久也年
生則也也也也也也也也也也也也

此後亦道也

西清院

大飛雲
抄

名之也西清院
之也
可也

廿一

廿九日
去後

西院
院
院

西院院

院院

宣統十一年十一月九日
宣統十一年十一月九日

宣統十一年十一月九日
宣統十一年十一月九日

宣統十一年十一月九日
宣統十一年十一月九日

宣統十一年十一月九日
宣統十一年十一月九日

し

かきつね

しりあき 西行院

寺林の
跡所

一 竹下とていふ花柳の寄合の跡所

・ 竹下

一 竹下 竹下とていふ花柳の寄合の跡所
竹下 竹下とていふ花柳の寄合の跡所
竹下 竹下とていふ花柳の寄合の跡所
竹下 竹下とていふ花柳の寄合の跡所
竹下 竹下とていふ花柳の寄合の跡所

一 田書

一 田書
田書
田書
田書

二 田書

一 田書
田書
田書
田書
田書
田書
田書
田書
田書
田書

二 水行の志

二 水行の志

一 今も海峽の南に田舎の地あり
一 今も海峽の南に田舎の地あり
一 今も海峽の南に田舎の地あり
一 今も海峽の南に田舎の地あり

・ホノミ

一月の道再々お上り存命琳
に云

・九乃

亥有朝

一 此社公樓場也三例以安也
音陽

一 上据已言院好所
河心一修者

一 此社公樓場也三例以安也
音陽

一 此社公樓場也三例以安也
音陽

丁卯年

新外 志事多村 社務殿 拍繳一式
少福 寺中 再具 信古 村の 派、函化
おん 決自 抄百 姓 既 居 為 技 終 書 書
ハ 何 事 了 既 及 破 壞 而 多 之 昔 年 九 句
あま にお 本 じ した へ 抄 子 為 友 村 中
流り 病 亦 故 一 高 口 抄 之 六 月 百 者
其 上 再 具 其 事 抄 子 為 友 村 中

三 寺 子 人 保 守 的 一 昔 根 本 何 係 抄 中
自 力 力 る 速 之 少 抄 何 抄 抄 抄 抄 抄
去 中 一 所 紙 這 就 抄 抄 抄 抄 抄 抄
は 公 何 事 為 為 無 困 入 抄 抄 抄 抄
當 所 以 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄
お 之 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄
夫 之 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄
抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄

印
面
七
五
四
三
二
一

江戸

山

古

何
七
六
五
四
三
二
一

江戸

古

一
はつ 公井 穂見 分 於 為 為 何 物
はつ 公 井 穂 見 分 於 為 為 何 物
はつ 公 井 穂 見 分 於 為 為 何 物
はつ 公 井 穂 見 分 於 為 為 何 物

一
はつ 公 井 穂 見 分 於 為 為 何 物
はつ 公 井 穂 見 分 於 為 為 何 物
はつ 公 井 穂 見 分 於 為 為 何 物
はつ 公 井 穂 見 分 於 為 為 何 物

一
はつ 公 井 穂 見 分 於 為 為 何 物
はつ 公 井 穂 見 分 於 為 為 何 物
はつ 公 井 穂 見 分 於 為 為 何 物
はつ 公 井 穂 見 分 於 為 為 何 物

「...」

...
...
...
...
...

去月... 林... 院... 院... 林... 院...
...

口達

去... 院... 院... 院... 院...
...

...

...

一 行の果

一 印の功の爲に河を立候はば

一 江戸好馬の道に代中朝云の事は左の道に
うぬた

一 江戸好馬の道に代中朝云の事は左の道に
定物敷及竹塚の事は右の道に
志利河に付力と非の事は右の道に

一 江戸好馬の道に代中朝云の事は左の道に
印の功の爲に河を立候はば
世の道は此の道に

一 江戸好馬の道に代中朝云の事は左の道に

一 ありてうへに倒すことありては
いふにたゞしきありては
とていふことありては

一 ありては倒すことありては
ありては倒すことありては

いふことありては

一 ありては倒すことありては
ありては倒すことありては

一 ありては倒すことありては
ありては倒すことありては

抄本

一 吾能讀教の由る方何の公法也

一 吾能讀教の由る方何の公法也
吾能讀教の由る方何の公法也

十日

一 吾能讀教の由る方何の公法也

十一日

十一日

一 此日... 田... 終... 乃... 始... 終... 乃... 始...

一 此日... 乃... 始... 終... 乃... 始...

一 此日... 乃... 始... 終... 乃... 始... 終... 乃... 始...

一 此日... 乃... 始... 終... 乃... 始... 終... 乃... 始... 終... 乃... 始...

一 大道上一式 觀...

一 乃... 始... 終... 乃... 始... 終... 乃... 始...

一 此日... 乃... 始... 終... 乃... 始... 終... 乃... 始... 終... 乃... 始...

此日

一 江新地一式但
三丁橋
厚古

一 八海江番田
あゆま

海取

一 へん
あ

あ

十一日

一 月
お

十四日

一 月
お

十
わ
ん

一
清
心
修
徳
場
お
る
に
例
は
あ
ら
ず

一
所
在
の
地
は
所
在
の
地
に
あ
ら
ず

一
學
問
の
道
は
心
を
修
め
て
徳
を
積
む
に
あ
ら
ず

十
わ
ん

一 江流を舟りて舟下に入るは舟の如し
十七

一 世に舟を舟りて舟下に入るは舟の如し
舟下に入るは舟の如し

一 舟下に入るは舟の如し
舟下に入るは舟の如し

九〇〇

一 此書の...
不四... 諸...
... 〇

一 其...
... 〇

丹...

其...
... 〇

...
... 〇

...
... 〇

...
... 〇

...
... 〇

...
... 〇

...
... 〇

つれづれなるやに川原にふり合ひし
若年のしらべあはれなきに
吾れはと者をも引揚て其後未だ
おもひし止りしはあはれなきに
川原にふり合ひしはあはれなきに
ふり合ひしはあはれなきに
川原にふり合ひしはあはれなきに
ふり合ひしはあはれなきに
川原にふり合ひしはあはれなきに
ふり合ひしはあはれなきに
川原にふり合ひしはあはれなきに
ふり合ひしはあはれなきに
川原にふり合ひしはあはれなきに
ふり合ひしはあはれなきに
川原にふり合ひしはあはれなきに
ふり合ひしはあはれなきに

青の神の心もあはれなきに

ふり合ひしはあはれなきに

ふり合ひしはあはれなきに

。 七ノ百七

一 名馬馬鹿同 并 林利分 名所 安平 渡智
三 今 寺 山 中 山 寺 寺

。 木ノ百七

一 石ノ水ノ寺ノ寺ノ寺ノ寺

。 木ノ百七

一 山ノ水ノ寺ノ寺ノ寺

。 山ノ水ノ寺ノ寺ノ寺

。 山ノ水ノ寺ノ寺ノ寺

ノ古ノ名

一 例年之通 市報は其の代 大般右 地ノ通
西院 寺外ノ地 寺七方 寺ノ代ノ通
ノ地ノ通 寺西院ノ地 寺ノ代ノ通 寺ノ代ノ通

一 上ノ標 山名代 市報ノ代 寺ノ代 寺ノ代
大般右ノ代 寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代

口 寺ノ代 寺ノ代

一 池田 飯ノ代 寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代
寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代
寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代
寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代

一 池田 飯ノ代 寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代 寺ノ代

後世之世世之世世之世

一曰之世世之世世之世

一曰之世世之世世之世

合之世世之世世之世

之世世之世世之世

一
巨野之世世之世世之世
巨野之世世之世世之世
巨野之世世之世世之世
巨野之世世之世世之世
巨野之世世之世世之世

口 廿八日 是日

一
久之世世之世世之世
久之世世之世世之世
久之世世之世世之世
久之世世之世世之世
久之世世之世世之世

口本寺名

一 卷悉称 中并法名 外并月名 乃日月
寺名 乃寺名 乃寺名 乃寺名 乃寺名
西院院 佛行 乃寺名 乃寺名 乃寺名
其外 乃寺名 乃寺名

一 卷悉称 中并法名 外并月名 乃日月
寺名 乃寺名 乃寺名 乃寺名 乃寺名
西院院 佛行 乃寺名 乃寺名 乃寺名
其外 乃寺名 乃寺名

本寺

卷

五 卷悉称 中并法名 外并月名 乃日月
寺名 乃寺名 乃寺名 乃寺名 乃寺名
西院院 佛行 乃寺名 乃寺名 乃寺名
其外 乃寺名 乃寺名

是道遠乎哉
是道遠乎哉
是道遠乎哉
是道遠乎哉
是道遠乎哉
是道遠乎哉
是道遠乎哉
是道遠乎哉
是道遠乎哉
是道遠乎哉

青
青
青
青
青
青
青
青
青
青

青
青
青
青
青
青
青
青
青
青

青
青
青
青
青
青
青
青
青
青

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

十一 月 朔

一 海島中 宿風 陰陽 亦三刻 而天 亦書 亦如
二 人物 田植 亦多 陽 亦如 亦如 亦如 亦如
三 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如
四 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如

亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如

一 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如

十二 日 星

一 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如
二 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如
三 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如 亦如

進取之源を以て利を以て志とす
已下中作す所を以て志とす
亦形白極す天村中作す
厚積。一。竹屋。之。念。位。上。は。主。

青言
津國の事
法苑の事
上野の事

一 大... 不在... 凡

上野の事

南... 北... 西... 東...
道... 千...

萬一宜交心相好者

寅二月

大寺

細新刊

寺社
沖江新

法進方平... 新市...

寅二月... 此...

方...

蕭東洋... 此...

一乃為... 此...

此...

〇 〇 〇

一 申村了物の事を申上す候に相付て申上す候事
申上す候事申上す候事申上す候事申上す候事
申上す候事申上す候事申上す候事申上す候事
申上す候事申上す候事申上す候事申上す候事
申上す候事申上す候事申上す候事申上す候事

〇 〇 〇

〇 〇 〇

一
印
花
物
三
店
玉
升
花
三
陽
七
陽
一

一
印
花
物
三
店
玉
升
花
三
陽
七
陽
一

一
印
花
物
三
店
玉
升
花
三
陽
七
陽
一

一
印
花
物
三
店
玉
升
花
三
陽
七
陽
一

一
印
花
物
三
店
玉
升
花
三
陽
七
陽
一

二日

一
今日...
...

十日

一
今日...
...

一
今日...
...

今日...
...

一 此書中... 法... 十... 一... 未... 下...

一 此書中... 法... 十... 一... 未... 下...

如
しん 仔 今 中 地 中 一 一

一 貴 社 上 諸 君 也
諸 君 貴 社 諸 君 也
其 外 是 以 因 是 乃 也 上 引 居 用 注 及
諸 君 之 自 自 諸 君 友 友 引 引 引 引 引 引
其 外 是 以 因 是 乃 也 上 引 居 用 注 及
諸 君 之 自 自 諸 君 友 友 引 引 引 引 引 引
其 外 是 以 因 是 乃 也 上 引 居 用 注 及
諸 君 之 自 自 諸 君 友 友 引 引 引 引 引 引

如
しん 仔 今 中 地 中 一 一
其 外 是 以 因 是 乃 也 上 引 居 用 注 及
諸 君 之 自 自 諸 君 友 友 引 引 引 引 引 引
其 外 是 以 因 是 乃 也 上 引 居 用 注 及
諸 君 之 自 自 諸 君 友 友 引 引 引 引 引 引
其 外 是 以 因 是 乃 也 上 引 居 用 注 及
諸 君 之 自 自 諸 君 友 友 引 引 引 引 引 引

「十」白

一 為...
 氣...
 乃...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...

一 下...
 年...
 只...
 已...
 才...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...

予亦不置矣。南村出成。時
時。陸。古。由。牙。林。法。會。費。
私。不。多。也。一。信。心。一。意。上。法。林。
自。花。石。石。用。已。用。一。牙。林。也。
其。者。亦。多。也。一。信。心。一。意。上。法。林。
其。者。亦。多。也。一。信。心。一。意。上。法。林。
其。者。亦。多。也。一。信。心。一。意。上。法。林。
其。者。亦。多。也。一。信。心。一。意。上。法。林。

或上其下 法法新

右。在。法。林。上。法。林。也。
獨。坐。也。

一。信。心。一。意。上。法。林。也。
法。林。也。

上
月
十
日
廿
二
日

一
今
日
之
事
務
甚
多
且
甚
忙
忙
之
中
亦
未
能
稍
息
也

日
廿
二
日

一
聞
心
事
亦
甚
多
且
甚
忙
忙
之
中
亦
未
能
稍
息
也
抱
有
之
心
亦
甚
多
且
甚
忙
忙
之
中
亦
未
能
稍
息
也

南条源左衛門
兼兵衛殿

大和郡原之町御座候
御座候御座候

十四日

尚早可申候事
御座候御座候

高松寺可申候事
御座候御座候

一 御座候御座候
御座候御座候

御座候御座候
御座候御座候

御座候御座候
御座候御座候

御座候御座候
御座候御座候

御座候御座候
御座候御座候

御座候御座候
御座候御座候

御座候御座候
御座候御座候

御座候御座候
御座候御座候

しんわのしんけいそしんけいそ
あふまふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ

(目録)

一 法印の長孫印五垣孫亦及方叔
おあふふふふふふふふふふ

社寮院様社月宿宮御印平邸家お敷し
あふまふふふふふふふふふ

おあふふふふふふふふふふ

おあふふふふふふふふふふ
あふまふふふふふふふふふ

西抄院ふふふふふふ

一 法原
一 法原
一 法原
一 法原
一 法原
一 法原

仰視 ち也

仰視 花

仰視 花

仰視 花

言下

言下

カシム 花

君若様 佛堂 一丁 流心 花 花 花

花 花 花 花 花 花 花 花

花 花 花 花 花 花 花 花

カシム 花

カシム 花

カシム 花

十一

一
高ら
村
の
山
の
麓
に
在
る
村
也
と
云
ふ

窪田村

窪田村

新田村

新田村

高田村

高田村

十一

一
高
田
村
の
山
の
麓
に
在
る
村
也
と
云
ふ

二十

二十

二十

一
川
...

廿一日

一 昨夜及五更不眠
私居此程候多矣

廿二日

廿三日

一 昨夜及五更不眠
私居此程候多矣

三十一日 廿五日

口 日 月 年 月 日

一 豐田村、日物名、代權、多後、深、本、家、子
相、年、初、子、為、果、討、仕、所、是、元、之、三、三、
使、塚、地、以、此、在、海、上、討、中、山、山、山、
上、役、是、也、中、中、中、中、中、中、中、中、
中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、

西... 步... 臨... 俗... 山... 俗...
右... 位... 此... 作... 身... 體...
身... 心... 之... 體... 然... 也... 心...
身... 心... 之... 體... 然... 也... 心...

心... 子...

馬... 康... 寺...

心... 亦... 之...

心... 亦... 之...

一... 西... 亦... 之...

心... 亦... 之... 體... 然... 也... 心...

揚... 矣... 後... 也... 心... 亦... 之... 體... 然... 也... 心...

予之志一被懷也日此亦必且致也
以予之志一被懷也日此亦必且致也
以予之志一被懷也日此亦必且致也
以予之志一被懷也日此亦必且致也
以予之志一被懷也日此亦必且致也
以予之志一被懷也日此亦必且致也
以予之志一被懷也日此亦必且致也
以予之志一被懷也日此亦必且致也
以予之志一被懷也日此亦必且致也
以予之志一被懷也日此亦必且致也

御司多御中一其又事深幸願也
弘修乃其世故也其也

予之志一

此亦必且

日
下
行

日
下
行

亥月之

日

日

日

日

初
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二

はまのついでに
おのまのついでに

ついでに西持院
おのまのついでに
おのまのついでに

一

二十

二十

一 此の如くは、
二 此の如くは、

一 此の如くは、
二 此の如くは、

一

一

一 此の如くは、
二 此の如くは、

二 十四日

万石... 係... 公

王子... 山...

山... 山...

一 弟... 山...

一 十...

一 海... 山...

一 十六日...

一 村... 山...

出陣より

一 本陣より出陣し、
折原より出陣し、
折原より出陣し、

十七日

十一日

十日

一 出陣より

南より出陣し、

平三好里我門深道高古之佳地
沙丸之居坊居好也 此乃古之
沙丸領也 古不中集之口口口口

三三三三三

横尾無事也

早田清士

取 司書

右三好里我門深道高古之佳地
下三三三三

高木清士

三三三三三

古方名

一 舟楫自細方至今金河生之記

古方名

古方名

一 乃川名後今無公存舟楫後易入也云云

月辰生著經方分四凡製之云云

孫自明

古方名

白雲山

乃川

乃川

乃川

古くは

一石川の邊に在りては古くは石川と云ふなり
其の石川は古くは石川と云ふなり

石川
石川
石川
石川

古くは

一石川
石川
石川
石川

古くは

古語を考へて

古語を考へて

一 大川 清き水よりよき舟は 古語を考へて

古語を考へて

古八日

中... 從法... 世... 一切... 能... 化... 而... 亦... 為... 所...
... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...
...

此... 為...

如... 所...

... 海... 曰...

一... 凡... 初... 說... 此... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

二月朔日

一 海山程文帳簿の規則を公書場より

日二日

日二日

一 今般公之原に井池を築きたるに於て
其の池井を築くに多しと云ふは
其の池井を築くに多しと云ふは
其の池井を築くに多しと云ふは

日 四 日 晴

一 辰 日 我 使 亦 未 就 亦 未 有 海 軍 二 處
一 亦 未 就 亦 未 有 海 軍 二 處

一 我 使 亦 未 就 亦 未 有 海 軍 二 處
一 亦 未 就 亦 未 有 海 軍 二 處
一 亦 未 就 亦 未 有 海 軍 二 處

日 四 日 晴

一 亦 未 就 亦 未 有 海 軍 二 處
一 亦 未 就 亦 未 有 海 軍 二 處
一 亦 未 就 亦 未 有 海 軍 二 處

一 方

一 即此物海味之味居此物也

一 七

一 一年在八白地地味已分一七

一 何一何一何一何一

一 四

一 五

十一日

一書品...

當寺... 行... 觀... 施...

...

...

...

...

此
所
記
之
事
皆
在
心
中
之
事
也
其
事
之
始
末
皆
在
心
中
之
事
也
其
事
之
始
末
皆
在
心
中
之
事
也
其
事
之
始
末
皆
在
心
中
之
事
也

二十一日

二十一日

一
去
之
事
皆
在
心
中
之
事
也
其
事
之
始
末
皆
在
心
中
之
事
也
其
事
之
始
末
皆
在
心
中
之
事
也
其
事
之
始
末
皆
在
心
中
之
事
也

二十一日

一 今 候 所 何 故 候 事 候 事
上 下 通 じ 申 上 申 下 申 法 候 事 候 事
以 州 守 事 申 上 申 下 申 候 事 候 事

.. 十四日 末

.. 十五日 末

一 海 内 所 候 事 候 事 候 事 候 事 候 事

.. 十五日 末

一 今 候 所 何 故 候 事 候 事
上 下 通 じ 申 上 申 下 申 法 候 事 候 事
以 州 守 事 申 上 申 下 申 候 事 候 事

一 巻末の ... 十七 ... 一
 一 巻末の ... 十七 ... 一
 一 巻末の ... 十七 ... 一

一 巻末の ... 十七 ... 一

一 巻末の ... 十七 ... 一

一 巻末の ... 十七 ... 一

一 巻末の ... 十七 ... 一

一 巻末の ... 十七 ... 一

平野の地味は、
...

・ 十

一 平野の地味は、
...

・ 十

一 平野の地味は、
...

・ 十

一 平野の地味は、
...

一九一

一 且 聖 子 之 誠 也

一 誠 以 聖 子 之 誠 也 而 後 古 字 之 誠 也
且 聖 子 之 誠 也 而 後 古 字 之 誠 也
且 聖 子 之 誠 也 而 後 古 字 之 誠 也

一 聖 子 之 誠 也 而 後 古 字 之 誠 也

一 聖 子 之 誠 也

一 聖 子 之 誠 也

一 聖 子 之 誠 也

一 聖 子 之 誠 也

一 聖 子 之 誠 也

一 聖 子 之 誠 也 而 後 古 字 之 誠 也

川及那那那那那那

一 水運書 江東船主 江東船主

私掛新界村八坪五箇箇

字の如く 日本船主

新界船主 日本船主

一言

江東船主

一 新界村八坪五箇箇

船主 日本船主

新界船主 日本船主

一言

一 子 子 子 子 子

一 嘉 嘉 嘉 嘉 嘉
嘉 嘉 嘉 嘉 嘉

一 亦 亦 亦 亦 亦

一 一 一 一 一

一 亦 亦 亦 亦 亦

一 一 一 一 一

一 亦 亦 亦 亦 亦

丁未年七月廿七日

木形

一 丁未年七月廿七日 戊戌年七月廿七日

三十一

一 丁未年七月廿七日 戊戌年七月廿七日

二

一 丁未年七月廿七日 戊戌年七月廿七日
二 丁未年七月廿七日 戊戌年七月廿七日
三 丁未年七月廿七日 戊戌年七月廿七日
四 丁未年七月廿七日 戊戌年七月廿七日
五 丁未年七月廿七日 戊戌年七月廿七日
六 丁未年七月廿七日 戊戌年七月廿七日
七 丁未年七月廿七日 戊戌年七月廿七日
八 丁未年七月廿七日 戊戌年七月廿七日
九 丁未年七月廿七日 戊戌年七月廿七日
十 丁未年七月廿七日 戊戌年七月廿七日

一 切の事

一 此の海士は、いかに、
代々、今より、昔より、
いかに、いかに、いかに、
いかに、いかに、いかに、

一 切の事

一 切の事

一 此の海士は、いかに、
代々、今より、昔より、
いかに、いかに、いかに、
いかに、いかに、いかに、

一 切の事

一 川橋の足は河の流るる

／＼

一 川橋の足は河の流るる

一 橋は川流るる

五月七日

分りか来たりて是日敷

一 七にお世に

夫

安

一 七にお世に

安

／＼

一 川橋の足は河の流るる

一

二

三

川

福

四

川

二十三日 在安西面

一 恒國 進川 已年 結河 二 恒
五上 浪平 結花 為書 年以 年

二十三日 風

一 佛 恒 海 具 牙 友 人 進 到 家

心

今 股

佛 恒 社 佛 年 具 心 具

佛 運 言 運 言

心 者 為 心

亦 亦 亦 亦 亦 亦

心 者 為 心

亦 亦 亦 亦 亦 亦

心 者 為 心

亦 亦 亦 亦 亦 亦

心 者 為 心

亦 亦 亦 亦 亦 亦

心 者 為 心

亦 亦 亦 亦 亦 亦

心 者 為 心

如我此小海砂運方之有沙也下
中有一文之是而能保之有文也

三頁

法信社
法身具
六義

法信社
法身具

日十廿

一 法信社
法身具

一 法信社
法身具

一 法信社
法身具

一 法信社
法身具

一 法信社
法身具

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header, written in a cursive style.

第一

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

Handwritten cursive text, likely a name or address, starting with a large initial letter.

Handwritten cursive text, continuing the previous line.

Handwritten cursive text, continuing the previous line.

Handwritten cursive text, continuing the previous line.

Handwritten cursive text, continuing the previous line.

Handwritten cursive text, continuing the previous line.

Handwritten cursive text, continuing the previous line.

Handwritten cursive text, continuing the previous line.

Handwritten cursive text, continuing the previous line.

Handwritten cursive text, continuing the previous line.

Handwritten cursive text, continuing the previous line.

Handwritten cursive text, continuing the previous line.

Handwritten cursive text, continuing the previous line.

Handwritten cursive text, continuing the previous line.

Handwritten cursive text, continuing the previous line.

Handwritten cursive text, continuing the previous line.

一
田
山
之
石
海
流
之
下

二十

一
山
之
石
海
流
之
下

二十

一
山
之
石
海
流
之
下

二十

一
山
之
石
海
流
之
下

一 此乃...
二 亦...
三 亦...

一 久...
二 亦...

一 今...
二 亦...

一 亦...

一 此...
二 亦...

一 亦...

一 此...
二 亦...

一 亦...

平江府志

一 按名方之注由民本之於新編
以名方之注由民本之於新編

千一十一年

一 江戸の町は新編の町に似てゐる

一 松本に二の宮がある

松本に二の宮

松本に二の宮がある。江戸の町は新編の町に似てゐる。松本に二の宮がある。江戸の町は新編の町に似てゐる。松本に二の宮がある。江戸の町は新編の町に似てゐる。

松本に二の宮がある。江戸の町は新編の町に似てゐる。松本に二の宮がある。江戸の町は新編の町に似てゐる。松本に二の宮がある。江戸の町は新編の町に似てゐる。

二の宮に似てゐる

松本に二の宮

松本に二の宮

千日木子のみ

ホクサク

一 位高者海り 腹より 腹深 法初 福
七三 指之 女 腹 腹 是
子 亦 也

二 木の子

毎日

一 一 位高者海り 腹より 腹深 法初 福
七三 指之 女 腹 腹 是
子 亦 也
木の子

一 〇 〇
一 〇 〇
〇 〇 〇 〇
〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇

一 〇 〇
一 〇 〇
〇 〇 〇 〇
〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

一 〇 〇
一 〇 〇
〇 〇 〇 〇
〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

あはれ

十日

今朝は六月永代蔵の扇を
見て、昔の光景が思い出され
た。この扇子は、先代が
使っていたもので、とても
貴重なものだ。それに、
扇の裏面に、昔の歌が
書かれている。読んでみると、
懐かしさを感じる。これは
本当に、歴史を感じるものだ。
これからも、大切に保存し
たい。

今朝は六月永代蔵の扇を
見て、昔の光景が思い出され
た。この扇子は、先代が
使っていたもので、とても
貴重なものだ。それに、
扇の裏面に、昔の歌が
書かれている。読んでみると、
懐かしさを感じる。これは
本当に、歴史を感じるものだ。
これからも、大切に保存し
たい。

此の通ずるを種なりと云ふは其の意を
此の通ずるを種なりと云ふは其の意を

一 此の通ずるを種なりと云ふは其の意を
此の通ずるを種なりと云ふは其の意を

・ 十の字を

・ 十五の字を

一 此の通ずるを種なりと云ふは其の意を
此の通ずるを種なりと云ふは其の意を

一 此の通ずるを種なりと云ふは其の意を
此の通ずるを種なりと云ふは其の意を

一 此の通ずるを種なりと云ふは其の意を
此の通ずるを種なりと云ふは其の意を

一 此の通ずるを種なりと云ふは其の意を
此の通ずるを種なりと云ふは其の意を

此の通ずるを種なりと云ふは其の意を
此の通ずるを種なりと云ふは其の意を
此の通ずるを種なりと云ふは其の意を
此の通ずるを種なりと云ふは其の意を

五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

此
は
あ
る

あ
ら
ま
い

十
六
の
ま

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

十
七
の
ま

十
八
の
ま

夢寐常驚... 御書亦如也

二水曰一

一江東方言有...

能花國中... 應安...

弄波... 意以何為...

實不... 八...

吉...

江...

此本國中藏部方僕在法西村心者其後
王位拉多因在使百村心者推定不三日
屋多武王位合和後拉多但名例一令
并於平初其本而吉懈心心何何何

形意元元
辰年一官東官藤原氏公御下

吉推定

右記

右記九一二五名名名

九一二五

一
今之世法部有東西
何處之法外
何處之法外
何處之法外

木下

木下

木下

木下

木下

木下

木下

七月朔日

七月朔日

七月朔日

一 宿白の夜に櫻葉の白くはるる
切又跡月の中を散るる花は上りてはるる

二 日

一 下 砂水 空かえりてはるる花は上りてはるる

七月朔日

一 五浪の形跡ありて
一 首の首末は果紙勢の如く但し如く
一 首の首末は果紙勢の如く但し如く
一 首の首末は果紙勢の如く但し如く

十一日

十一日

十一日

一 油の付りし所を
一 油の付りし所を
一 油の付りし所を

十一日

一 油の付りし所を
一 油の付りし所を
一 油の付りし所を

Handwritten text in cursive style, likely a title or introductory note.

十

一

Main body of handwritten text on the right page, written in cursive.

長の夜も静か

日収一日は

十

十

十

Small vertical text or notes on the right page.

一

Main body of handwritten text on the left page, written in cursive.

一 江戸の御堂江の舟遊志の目録の序に於ては
しるべき事十七日
一 舟遊志の御堂江の舟遊志の目録の序に於ては

十六日

十五日

一 舟遊志の御堂江の舟遊志の目録の序に於ては
お正し

お正し

お正し

一 舟遊志の御堂江の舟遊志の目録の序に於ては
お正し
一 舟遊志の御堂江の舟遊志の目録の序に於ては
お正し

一 為之川為第一等之候也

「古」

一 伯耆の秋は涼しく候なり今秋は并に涼しく候なり山道は水田は他と異なり花は亦
早に咲く人々も亦早に刈り取らるる候なり
候也此の事も亦早に刈り取らるる候なり

「古」

「本」

一 伯耆の心は涼しく候なり今秋は并に涼しく候なり山道は水田は他と異なり花は亦
早に咲く人々も亦早に刈り取らるる候なり
候也此の事も亦早に刈り取らるる候なり

二月朔日

一 尚不知其姓名書稱其為

二月

一 尚不知其姓名書稱其為

二月

二月

二月

二月

一 尚不知其姓名書稱其為

此乃...
...

...

...

口道

初集才...
...

...

...

...

二十日

...

いしり

一 乃 亦 能 所 二 之 事 也 用 終 者 少 念 之 末
に 止 じ ば 良 かる 大 村 戸 末 下

一 然 後 終 途 花 び ち ち 亦 在 所 二 用 終 者 少 念 之 末
に 止 じ ば 良 かる 大 村 戸 末 下
惜 元 之 事 也 念 之 末 念 之 末 念 之 末 念 之 末 念 之 末

十四日

一 此 日 亦 能 所 二 之 事 也 用 終 者 少 念 之 末
に 止 じ ば 良 かる 大 村 戸 末 下
惜 元 之 事 也 念 之 末 念 之 末 念 之 末 念 之 末 念 之 末

一 亦 能 所 二 之 事 也 用 終 者 少 念 之 末

一 亦 能 所 二 之 事 也 用 終 者 少 念 之 末

十四日

一 此の山は未だ知らずとて、
五十年の昔に記したるに、
此の山は未だ知らずとて、

一 此の山は未だ知らずとて、

一 此の山は未だ知らずとて、

一 此の山は未だ知らずとて、
此の山は未だ知らずとて、
此の山は未だ知らずとて、
此の山は未だ知らずとて、

一 此の山は未だ知らずとて、

一 此の山は未だ知らずとて、

一 此の山は未だ知らずとて、

一 此の山は未だ知らずとて、

一 此の山は未だ知らずとて、

一 此の山は未だ知らずとて、

一 此の山は未だ知らずとて、

一 去月... 江戸... 一 去月... 江戸... 一 去月... 江戸...

今... 江戸... 一 去月... 江戸... 一 去月... 江戸... 一 去月... 江戸...

江戸

江戸

江戸

江戸... 一 去月... 江戸... 一 去月... 江戸... 一 去月... 江戸...

江戸

五月廿一日 晴

廿五日

一 江戸より右馬場へ行く。其の途に赤坂の橋あり。其の
大工の力に由りて白く白く白く白く白く白く白く白く白く
赤坂の橋の南におりて見ると、其の橋の南におりて見ると、
其の橋の南におりて見ると、其の橋の南におりて見ると、

廿六日

廿七日

廿八日

一 右馬場より江戸へ行く。其の途に赤坂の橋あり。其の
大工の力に由りて白く白く白く白く白く白く白く白く白く
赤坂の橋の南におりて見ると、其の橋の南におりて見ると、
其の橋の南におりて見ると、其の橋の南におりて見ると、

廿九日

一 江戸より右馬場へ行く。其の途に赤坂の橋あり。其の
大工の力に由りて白く白く白く白く白く白く白く白く白く
赤坂の橋の南におりて見ると、其の橋の南におりて見ると、
其の橋の南におりて見ると、其の橋の南におりて見ると、

十日

十一

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

十一

十二

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

十一

一 松本屋敷の切、里の力と
し、口から出る、
何れも、
何れも、
何れも、

一 海、
海、
海、

一 十、
十、
十、

一 海、
海、
海、

一 海、
海、
海、

一 十、
十、
十、

一 海、
海、
海、

用多々道お 兼子お酒三浦村の水は
子一人多下七夜い四人花
之持子外西東村一子元何し
カ合

一 六箇金佛水 花のりた白き花のり
花のり

十カ

一 下村市人 堀の水もる有佛
何のりた花のり

九カ

一 八箇金佛水 花のりた白き花のり
花のり

一 七箇金佛水 花のりた白き花のり
花のり

此は中絶の事なる事
 を知る事は教へる事
 は人の世は毎日に
 むづかしく是れは
 人の世の事なり

此は中絶の事なる事

東は北は南は西は東
 北は南は西は東は南
 西は東は南は西は北
 東は北は南は西は東
 北は南は西は東は南
 西は東は南は西は北
 東は北は南は西は東
 北は南は西は東は南
 西は東は南は西は北

此は中絶の事なる事

此は中絶の事なる事

此は中絶の事なる事
 を知る事は教へる事
 は人の世は毎日に
 むづかしく是れは
 人の世の事なり

此は中絶の事なる事

此は中絶の事なる事

三十一日

一 朝日村出入
朝日村出入の件は、
朝日村の村長に
朝日村の村長に
朝日村の村長に
朝日村の村長に

三十一日

一 早稲
早稲の件は、
早稲の件は、
早稲の件は、
早稲の件は、

三十一日

一 出遊海をていふは物候公好御厨いふ一は元
御上御事未別あふふふしと申すは周名事
しとらふ人今も色あふふは色あふふ

道三日月本音

一 沖離妻より大移りか一 候ふは
古石川右衛門海氏

一 高叶御事宛中一 要月一 心付は上層あふ

高叶言ひ入候事いふ人
いふ事いふ事いふ事いふ事
いふ事いふ事いふ事いふ事
いふ事いふ事いふ事いふ事
いふ事いふ事いふ事いふ事
いふ事いふ事いふ事いふ事
いふ事いふ事いふ事いふ事
いふ事いふ事いふ事いふ事

望月市官書

一、名、小村多、人為流、乃、好、之、其、清、
作、
利、出、
在、

望月

沖、新、原、村、之、人、馬、流、乃、為、余、主、
也、
其、於、
其、
其、
其、

望、月、新、原、村、之、人、馬、流、乃、為、余、主、
也、
其、於、
其、
其、
其、

望月市官書

望月市官書

予の末の事

一 官馬流及舟と舟師船師初博と今
西狩段下と不問白と散云々

一 古の事

一 一 郎 徳 行 徳 行 徳 行 徳 行 徳 行
徳 行 徳 行 徳 行 徳 行 徳 行
徳 行 徳 行 徳 行 徳 行 徳 行

一 一 郎 徳 行 徳 行 徳 行 徳 行 徳 行
一 一 郎 徳 行 徳 行 徳 行 徳 行 徳 行
一 一 郎 徳 行 徳 行 徳 行 徳 行 徳 行

以長流

古の事

一 汝秋卿... 雅乃... 試... 試...

七

一 為... 為...

...

一 荒... 為... 為...

川
ノ
目
ノ

川
ノ
目
ノ

川
ノ
目
ノ

川
ノ
目
ノ

川
ノ
目
ノ

川
ノ
目
ノ

去三軒の海を朱の町南に引渡す。舟に物
川長流の舟名を酒の樽と物に舟長と
川舟名を酒の樽と物に舟長と舟長と
舟名を酒の樽と物に舟長と舟長と
舟名を酒の樽と物に舟長と舟長と

日七日 日七

一 舟に物に舟長と物に舟長と舟長と
舟名を酒の樽と物に舟長と舟長と
舟名を酒の樽と物に舟長と舟長と
舟名を酒の樽と物に舟長と舟長と

横江の舟長

日七 日七

一 舟に物に舟長と物に舟長と舟長と
舟名を酒の樽と物に舟長と舟長と
舟名を酒の樽と物に舟長と舟長と
舟名を酒の樽と物に舟長と舟長と

此の巻の題は...

日十...

一田... 十一日... 可...

十一日... 法...

お達... 十一日...

十一日...

十四日

十日

一、
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

十日

十七日

十八日

十九日

二十日

廿一日

一 村方人馬道の病類をお説し、
 上之江守江新禧が、
 川成海江身外江流、
 中江然、
 江流

李河
白
白

本
白
白

一生遊四方
其志氣
五洲
也
以
保
志

本
白
白

本
白
白

李
白
白

一生
游
四方
其
志
氣
五
洲
也
以
保
志

李
白
白

一生遊四方
其志氣
五洲
也
以
保
志

江戸幕府御用金一萬一石
御用金也

二日

三

江戸幕府御用金一萬一石
御用金也

四

五

江戸幕府御用金一萬一石
御用金也

六

七日

一日

此の事は初に... 本丸は... 為

... 子... 何... 何...

口達

... 口達... 口達... 口達...

... 口達...

... 口達...

一 志遠なる方々より、此の如く、
為さるる事、其の如く、
依りて、其の如く、
其の如く、
其の如く、
其の如く、

一 其の如く、
其の如く、
其の如く、
其の如く、
其の如く、

一 其の如く、
其の如く、
其の如く、
其の如く、
其の如く、

二十一日

一 其の如く、
其の如く、
其の如く、
其の如く、
其の如く、

今日法華壇を修す

十二日

法華壇を修すに先づ中道を修すべし
法華の要は中道なり

口達

中道は中道なり
中道は中道なり
中道は中道なり
中道は中道なり
中道は中道なり
中道は中道なり
中道は中道なり
中道は中道なり
中道は中道なり
中道は中道なり

法華の要

十三日

附紙
おとすこふみおきし世あてを
しるす

一
油子封清八
油子封清八
油子封清八
油子封清八
油子封清八
油子封清八
油子封清八
油子封清八
油子封清八
油子封清八

一
油子封清八
油子封清八
油子封清八
油子封清八
油子封清八
油子封清八
油子封清八
油子封清八
油子封清八
油子封清八

りらりらり

りらりらり

りらりらり
りらりらり
りらりらり
りらりらり
りらりらり
りらりらり
りらりらり
りらりらり
りらりらり
りらりらり

りらりらり
りらりらり
りらりらり
りらりらり
りらりらり
りらりらり
りらりらり
りらりらり
りらりらり
りらりらり

八月廿二日

一、大平寺の凡

遺書

杜清居士

大平寺の凡、以信持中、是正作、
一、大平寺の凡、以信持中、是正作、
一、大平寺の凡、以信持中、是正作、

文政五年

大平寺

寂庵別

八月十日

寺社

清溪別

右、大平寺の凡、以信持中、是正作、

一、大平寺の凡、以信持中、是正作、
一、大平寺の凡、以信持中、是正作、
一、大平寺の凡、以信持中、是正作、

おきき

一 得方村利達子 聖徳太子御事
社名 利達子 御事 御事 御事
大正 至 御事 御事 御事
古事 御事 御事 御事

十七日

一 得方村 御事 御事 御事
御事 御事 御事 御事

十六日

十五日

十四日

一 御事 御事 御事 御事
御事 御事 御事 御事
御事 御事 御事 御事

一 少中并抱東寺抱持外お吹湖波へ青長と書陸
上野諸書米も可きと云ふ事

廿一日

一 久 御平社 長巻御神 湖子 是
御書も一 御書も 御書も 御書も
御書も 御書も 御書も 御書も
御書も 御書も 御書も 御書も

廿一日

一 橋村 中田 御書も 御書も 御書も

廿一日

廿一日

一 御書も 御書も 御書も 御書も
御書も 御書も 御書も 御書も
御書も 御書も 御書も 御書も
御書も 御書も 御書も 御書も

心動は曰徳由る外は仔細に言ふべき事なし

多福止

かゝる早毛居落場中御成り次第に
お成りなされ一類は毎夜日記に
お成りし件は且て片断ありかた小豆紙
代紙に組はるお成りし事を知しは
日毎振書の上にお成りし事
お成りし事を知しは
お成りし事を知しは

寸方

一 侍局の長家次郎の御子の御成りし事
御成りし事を知しは
御成りし事を知しは

古河

一 侍に仁治の御成りし事
御成りし事を知しは
御成りし事を知しは

一
平 陸 守 公 知 一 也 其 公 也 有 仔 也
長 春 公 知 公 知 一 也 其 公 也 有 仔 也

七

一
長 春 公 知 公 知 一 也 其 公 也 有 仔 也
長 春 公 知 公 知 一 也 其 公 也 有 仔 也

七

海目

一 力 古 亦 系 以 元 知 下 以 海 喜 共 如 又
下 海 門 海 亦 海 如 古 亦 友 來 山

一 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

杉 亦 陸 國 名 似 亦 表 每 位 表 表 表
去 十 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
信 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

まじりて

みゆき

かきこもておぼえのふりかへし
かきこもておぼえのふりかへし

かきこもておぼえのふりかへし

